



全国学力学習状況調査の結果を受けて

校長 岡田 優子

毎朝8:00、子どもたちは元気に登校してきます。「おはようございます。今日は暖かい上着を着ているね。」「でも、この下は半袖だよ。朝だけ寒いもん。」なんて子どもたちと会話を楽しむ朝の時間は至福のひとつです。

さて、子どもたちは登校から下校まで、7時間40分ほどを学校で過ごしますが、そのうち、朝の会・帰りの会・休み時間・給食等を除くと、4時間30分は授業(学習の時間)となります。この授業の時間で、私たち教員は、子どもたちに必要な力(学力)をつけていかななくてはなりません。身につけるべき力がきちんとついているか、確認するものとして、日々の授業での評価、単元テストやまとめのテスト等を行っています。さらにもうひとつ、6年生だけが行う「全国学力学習状況調査」があります。これは全国一斉に行われるもので、子どもたちの学力について、客観的なデータをもとに分析し、今後の指導に活かしていくものです。今年の4月、本校の6年生も国語と算数のテストに取り組みました。その結果についての考察を述べます。

国語で優れていた点は、①登場人物の相互関係や人物像・心情について、描写をもとにとらえることができること②情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方理解していること③日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気づくことができることの3点でした。もう少し頑張るとよい点は、①目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し明確にすること②資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること③物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書くこと④漢字を文章の中で正しく使ったり、文の中における主語と述語の関係を捉えたりすることでした。

日頃の読書活動や国語の授業を通して、文章の内容や登場人物の心情等をとらえることができ、理解はできているが、それについて考えたことを自分の言葉で表現したり、目的や意図に応じて資料を集め活用し、自分の考えを伝えたりしていく、アウトプットする力に弱さがみられることがわかりました。自分の考えを話す・書くといった表現する力を育むことや、条件に沿って文章を書くこと、目的に応じて資料を活用しながら工夫して発信していくことを重点的に指導していきます。また、漢字や主語・述語の関係についても、繰り返し練習し、きちんと身につけていけるようにしていきます。

算数においては、優れていた点として、①直方体の見取り図について理解し、書く力が身につけていること②角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できること③速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができるがありました。もう少し頑張るとよい点は、①問題場面の数量の関係を式に表すこと②計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述すること③除数が小数である場合の除法について除数と商の大きさの関係について理解し、正しく計算できることでした。

図形については、実際に立体を作るといった具体物を使った学習やタブレットを使った学習で、形や面の位置関係などについて正しく理解できていることがわかりました。問題場面を正しくとらえ、立式することや、既習事項を使いながら立式・解決することについては弱さがみられたので、日々の授業の中で、問題場面を正しくとらえるポイントや立式まで導くことについて、丁寧に指導していきます。除数が小数の場合の除法については、除数と被除数を10倍しても商は同じであることを再認識させ、繰り返し問題にあたり、正しく計算できるようにしていきます。



毎日の4時間30分の授業をどう工夫していくか・・・子どもたちが「よくわかる・楽しい」授業をめざし、学力向上につながっていくよう、これからも日々授業改善に取り組んでまいります。